



平成29年7月24日

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構

日本原子力研究開発機構から受け入れた被ばく作業員の方々の 四回目の入院について（お知らせ）

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構(理事長：平野俊夫 以下、量研)は、放射線医学総合研究所（以下、放医研）において、日本原子力研究開発機構大洗研究開発センター燃料研究棟で被ばくされた作業員5名を患者さんとして受け入れ、緊急被ばく医療施設などで検査と治療を行ってきましたが、そのうち3名の患者さんが、7月24日に四回目の入院をされ、検査と治療を開始しましたのでお知らせします。

患者さん5名は、全員 DTPA(注1)治療の効果が認められたため、複数回入院されて治療を実施してきましたが、バイオアッセイ(注2)検査の結果から、試料中のプルトニウムの量が非常に少なくなった2名の患者さんについては、ご本人たちともご相談の上、三回目以降の入院はされていません。

一方、3名の患者さんについては、三回目の入院を伴う3クール目の DTPA 治療を実施いたしました。この度、これらの患者さんについてその後の検査結果を検討し、4クール目の DTPA 治療の効果が期待できると判断したため、3名全員について再度入院していただいたもので、今回も5日間を1クールとする DTPA 治療を行う予定です。入院された患者さんの容態については、特段の変わりはありません。

なお今後は、患者さんの退院や入院については、容態等に特段の変化が無い限り、適宜、量研のホームページでお知らせすることとし、お知らせ文の配付等は実施しないことにいたしますので、ご理解をよろしくお願いいたします。

— 以上 —

(注1) DTPA：ジエチレントリアミン5酢酸（英語名：Diethylene-triamine-pentaacetic acid）。体内に取り込まれたプルトニウムの体外排泄を促す効果があるとされる、キレート剤と呼ばれる薬剤。プルトニウムを積極的に排出し、内部被ばくの量を減らす効果が期待される。

(注2) バイオアッセイ：個人の被ばく線量評価のため、尿、便など人体からの排泄物中の放射性核種の放射能を分析する方法。